

令和3年度 家庭教育支援プログラム指導者研修① 実施報告

実施日：令和3年5月27日（木）

【午前の研修】

○ 開講式

○ 説明「本県の家庭教育支援について」

栃木県教育委員会事務局生涯学習課 副主幹 針谷 英子
栃木県で行われている家庭教育支援事業について説明がありました。家庭教育支援プログラム活用促進事業や家庭教育オピニオンリーダーの養成、家庭・地域いじめ対策教育支援事業などについて、受講者は理解を深めることができました。

○ 説明「参加型学習と家庭教育支援プログラムとは」

総合教育センター生涯学習部職員

家庭教育支援プログラムについて、参加型学習の形態をとることでのどのような効果があるのか、よりよい学びの場とするために指導者はどのような役割を担うかなど、家庭教育支援プログラムのテキストの内容と関連させながら説明がありました。受講者は家庭教育支援プログラムの概要について知ることができました。



【午後の研修】

○ 演習「よりよい関係づくりを促すワーク体験」

河内教育事務所ふれあい学習課 副主幹 石塚 秀幸

上都賀教育事務所ふれあい学習課 社会教育主事 大橋 礼子

各教育事務所ふれあい学習課家庭教育担当の自己紹介後、家庭教育支援プログラムの導入で行う「アイスブレイク」についての演習を行いました。始めに、家庭教育支援プログラムにおけるアイスブレイクの意義について確認しました。その後、コロナ禍でもできる個人ワークやグループ作り・自己紹介で使えるワークのやり方や実施の際のポイントなどについて学びました。



○ 講話「家庭教育の現状と課題、その方策について」

宇都宮共和大学 教授 土沢 薫 氏

子育てで事情について研究を重ねている土沢先生から、子どもの心と脳の発達や家族構成の多様化、現代のストレス社会における虐待の問題、コロナ禍における家族と子育ての関係などについて講話を聞き、たくさんのことを学びました。

中でも、子どもの発達段階に応じた大人の役目について考える「こころの育ちのみちすじ」の話では、実生活における子どもと関わる様々な場面での大人の対応を、受講者とともに考えていく内容で、受講者にとって大変参考になったようです。具体例を挙げながらの分かりやすい説明を聞きながら聞く受講者の姿がたくさん見られました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・家庭教育支援として親の学べる機会を提供することの大切さを改めて学び、ファシリテーターとしてのスキルを高めたいと思いました。
- ・コロナ禍でも楽しめる工夫等、私たちの活動も社会情勢に合わせ、変化させていかなければならないと感じました。
- ・子育てに必要な知識やスキルを学ぶということはどんなことなのか、土沢先生のお話で理解が深まりました。
- ・家庭教育の大切さに改めて大きく気づくことができました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp